

平成25年度 【 学園研究費助成金< B > 】研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ ハシモトマサヨシ
氏名 橋本 雅好

研究期間 平成25年度

研究課題名 テーブル・机の状況と心理的領域との関連性に関する実験的研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	橋本 雅好	生活科学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

現在、学校、飲食店、図書館といった様々な場所でテーブルは使用されている。普段から使用する機会が多いテーブルだが、居心地や作業のしやすさなどについて、明らかにされていない部分が多い。本研究の目的は、座席配置、相手の有無や人数の変化を変数とし、作業時におけるテーブル上の空き領域の面積や形状について、数値的に明らかにし、また、相手の位置や人数が作業環境の印象評価に与える影響についても合わせて検証することである。また、本研究が実空間で役立つ、テーブルに関しての基礎的指針となることも目指す。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

被験者をテーブルの指定場所へ座らせ、実験の手法を説明後、実験を始める。調査用紙に示された各用語について、資料を用いて調べ、記入するという作業を被験者におこなってもらう。実験者は、5分間計り、テーブル上の撮影をおこなう。被験者は作業を終了し、印象評価アンケートを記入する。これらの一連の工程を10パターン繰り返す。最後に、手の長さや空き領域に対してのヒアリングをする。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

【空き領域の面積と印象評価】 人数の増加に伴い、空き領域の面積は小さくなり、評価が低くなることが明らかとなった。また、一概に空き領域が大きければ良い評価となるわけではないことがわかった。さらに、座席配置が空き領域に影響を与えていることも明らかとなった。

【作業スペースの形 (島型・一体型)】 島型と一体型では、島型の空き領域の面積の方が大きくなり、人数の増加に伴って、島型から一体型へ変化していくことがわかった。また、座席配置によって空き領域の形に変化がみられたことから、座席配置や相手の位置が空き領域に影響を与えていることが明らかとなった。

【画像分析】 実験パターン 10 種類を比較しても、必ずこの領域は空いているというスペースが無いことがわかり、テーブルには無駄なスペースが無いことが明らかとなった。また、資料の置き方や座席の配置、相手の位置などによって作業の仕方が変わり、空き領域の空き方も変化することがわかった。

【個人分析 短辺方向】 1人がけと3人がけでは、空き領域の大きい1人がけの方が評価が高い結果となったが、同じ人数が座る場合、空き領域の面積の大きい方が評価が高いわけではなかった。2人がけでは向かい合わせ、3人がけでは正面と右側に相手のいるパターンの評価が高い結果であったことから、空き領域の面積よりも相手の位置が印象評価に影響を与えると考えられる。作業スペースは、2人がけでは島型、3人がけでは一体型となる傾向がみられた。

【個人分析 長辺方向】 1人がけと3人がけでは、空き領域の大きい1人がけの方が評価が高い結果となったが、同じ人数が座る場合、空き領域の面積の大きい方が評価が高いわけではなかった。2人がけでは、向かい合わせに相手のいるパターンの評価が高い結果であったことから、空き領域の面積よりも相手の位置が印象評価に影響を与えていると考えられる。2人がけの2-L-IIと2-L-IIIでは、相手が座っている位置に限らず、結果に大きな差はみられなかった。作業スペースの形は、3人がけでは、一体型となる傾向が多かったが、2人がけでは、2-L-Iでは島型、2-L-IIでは一体型、2-L-IIIでは島型と一体型にばらつきがみられた。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①テーブル	②空き領域	③作業スペース	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

日本建築学会大会への口頭発表に投稿予定である。